

ExtraNews @ the Earth

ソーラー発電事業を開始

以前妙法学校を寄贈したタケオ州ポアンピール地区の診療所にソーラーパネルが設置された。茨城県古河市本成寺（電貫省住職）を始めとした立正同志会から寄せられたご寄付で、電気の届かない僻地に明かりが灯された。未だインフラ整備が行き届かない村は多いが、太陽の光は燦々と降り注ぐ。

2009年度から、カンボジアのプノンペン行政府の依頼により、事故が多発している道路に、日本が開発したソーラーパネル式発光ダイオード交通標識を寄贈する件を、新井恵裕会員・豊川一男会員・小野光毅会員が交渉しているが、本年春、ようやく日本でパテントを持っている信画堂さんの協力で、試験的に、危険箇所30地区に設置する方向で話がまとまった。

一方、カンボジア・ミャンマー・ネパール・スリランカで活動してみた結果、電気の無い地域が数多く、日常生活に支障をきたしている現実に直面している。環境に優しく、費用のかからない電力の供給は緊急の課題である。その地域の要望に応えるべく、ソーラーパネルの発電にT・Mとして関わりだした。まずモデルケースとして、カンボジアのタケオ州に寄贈した学校の地域内の診療所に、ソーラー発電による設備工事を始めている。日本円で15万円の予算である。この結果は次号で詳しく報告する。

もしこの事業が成功したら、アジアだけではなくアフリカ・中南米にも支援の輪が広がっていくでしょう。

「アジアの子ども達に未来を」 常時ご寄付を集めています

- ・名義「特定非営利活動法人 T・M良薬センター」
- ・銀行「群馬銀行本店 普通 2134150」
- ・郵便局「00160-5-591781」

表紙写真／妙昌寺が寄贈したアウンシュク中学校
印刷協力／群馬県沼田幼稚園（田代浩敬園長）

ロンボークラブ 16



カンボジア／ミャンマー／スリランカ／バングラディッシュ



「あたりまえをあの子にも」

会報 第16号

平成22年 4月16日
T・M良薬センター本部
371-0852 群馬県
前橋市総社町総社 1024
Tel&Fax : 027-254-2325
E-mail : office@tmrc.jp
<http://www.tmrc.jp>

カンボジアプロジェクト

妙法学校完成

日蓮宗妙昌寺（村井惇匡住職・埼玉県東松山市）が現住職就任後、貯蓄してきたお布施の300万円を寄付し、南西部の村に中学校を建設した。完成に伴い3/9～3/12、ご寺族と同寺檀家代表数名合同のスタディーツアーを実施し、アウンシュク中学校の贈呈式に参列した。その模様を紹介する。

第4校目の妙法学校が建設された地はカンポット県チュック郡チュウティオ村。首都プノンペンから南へ約130Km、のどかな車窓感慨深く、バスで3時間の道のりだった。

3月9日成田空港に集合した訪問団メンバーは、当校のドナーである妙昌寺の村井惇匡住職はじめ、村井朝海さん、寛君（12才）、禅君（10才）、稲村筆頭総代、岸護持会長、中野次席総代、杉田様、其田様、TMより小野理事長、豊川会員、小野正遠事務員、以前3校目を寄贈した「アジアの子ども達に学校を贈る会」より高橋様の全13名。海外は初めてという方もいるなか、滞在2日間のハードスケジュールだったが、和気藹々とした楽しいツアーとなった。



贈呈式当日は蒼天広がる良い日となり、参集した生徒や関係者約1,000名に大歓迎をうけた。村人が見守る中、妙昌寺檀信徒、寺族、最後に住職の手でテープカットが行われ、拍手喝采の中新学校が開校された。



完成したアウンシュク中学校



新妙法学校は鉄筋コンクリート平屋建て4教室。32m×9m×7m（高さ）

本年度生徒数232名（女子63名）の学舎だ。教師数6名。チュウティオ村を含め近隣4ヶ村（約1,500戸）から通学している。

双方の調印が済まされ寄

贈式典に移動。村井住職は、「日本の私達も同じく喜びを感じている。新しい教室でよく学んでほしい」と、祝辞を述べた。続いて日本の中学生を代表して村井寛君より「シェムリアップソアー（クメール語の挨拶）。



新しい学校を楽しんでください！」とエールが送られ、カンボジアの生徒にサッカーボールがプレゼントされた。両国のサッカー少年が交流しました。

閉式後、妙昌寺一行は各教室

を回って新しい席に着いた生徒1人1人に教科書を配布し、喜びを分かち合った。カンボジアは、4月中旬にクメールの新年を迎えるにあたり一時休校し、6月に終業式が行われる。3ヶ月間の長期休暇の



後、10月1日から新年度がスタート。現行の中学生は、贈呈式の後日すでに新校舎を使用している。新年度の入学予定者は約130人いるようだ。「今までの就学状況（スペース不足のため、午前と午後に分けていた）を思えば、夢のようだ。今後は中身を充実させたい。」と、ハオーチャップ校長は嬉しそう。

トイレ寄贈

現在アウンシュク中学校と、隣接する小学校の生徒の合計数は約600名で、トイレは右の1棟だけしかない。ほとんどの学生はシャベルで自分で穴を掘り、用を足している状態だそう。校内を見学した一行は新校舎に併せてトイレ4棟の建設を決め、帰国後工事が始まっている。建設資金は村井住職と親交がある、中村瑞峰東松山市仏教会々長（曹洞宗曹源寺住職）が共同している。建設予算2,500\$（左、新校舎の隣）



さらに、2009年3月に落慶されたアントマイ小学校にも、ドナーである大阪宝樹寺より新たにトイレを2棟を寄贈することが決った。建設費1,200\$

井戸寄贈 2009年度に日蓮宗山形県社会教化事業協会の名でチュック郡の村に寄贈した井戸を見学した。村のオアシスとして人々を潤わせている。そして、2基目の井戸掘削の話が進展し、この度完成。先日窓口のダリー宗教文化相事務次官から画像が送られてきた。一基掘削費用620\$。水は人をあつめ、和ませる。



ミャンマープロジェクト

マイトリー・スクール拡大

ハンセン病の発症率が高いミャンマーでは、発症すると家族全員隔離村に強制移住させられてしまう。村内には健全な子どもも多く、差別に巻き込まれている。次世代において差別を無くすため、2005年に北部ザガインのハンセン病村の中に学校を建てて、国に寄贈した。その後国営学校「マイトリースクール」として運営されているが、図書室と保健室を併設した同校（北部有数の規模）には、その村の子ども達はほぼ全員、他の地域の子どもも多く通学し、少しずつ人々の心にひかれた境界線が薄くなっていることを実感している。



昨年9月に訪問した際、同校の関係者から卒業生の就職支援の為に、小中一貫校として5年制から8年制に昇格させたいとの提案を受け、日本で6,7,8年生の各担任3名分の給料（5千円/月）3年分のスポンサーを募ったところ、田村照明上人（群馬県富岡市本城寺住職）と、富松義真上人（岡山県久米郡蓮久寺住職）、野口啓隆上人（柴又経寺内）のご協力を得ることができ、2010年3月から新たに教師3名を雇用し、8学年のクラスがスタートしている。今後3年間の実績を政府に報告し、指定一貫校の認可を受ける予定。同校がミャンマー全体のハンセン病差別を打破する突破口になれば幸甚です。

スリランカプロジェクト

国際仏教交流センター設立へ

2009年11月7日より、12日まで小野理事長がスリランカのパートナー、ダンミッサラ僧正と、津波支援の仕上げと新しい事業のため、スリランカを訪問した。まず、静岡中部社教会と久成寺（旭英順住職）の追加支援により、新潟東部社教会の援助により建設中のコッテゴタ市パンタラーマヤ寺の僧院を、2階建てに増築して完成式を行った。これにより、南部の復興事業は終了した。なお、T・M創設以来のスリランカの協力者、ダンミッサラ僧正が、このたびスリランカの2大仏教宗派の1つ、ウダラタアマラプラ宗の副大僧正に就任し、本年の3月11日就任式が行われた。50歳の若さで抜擢され、実質上の最高指導者になった。さっそく、T・M良薬センターの顧問に昇格してもらった。



僧院の完成を喜ぶ人々

ダンミッサラ僧正の今後の仕事は、信徒から奉納してもらった、首都コロンボの郊外、3千坪の土地の活用で、国際仏教交流センターを設立することで、政府の許可を得ている。青写真もでき、今年から建築が始まる予定である。T・Mとしても出来る限り協力したい。

今年度の日蓮宗のスタディーツアーは、このT・Mのスリランカプロジェクトが予定されています。

講義室、宿泊施設、修行道場等現代の祇園精舎がつけられる



バングラディッシュプロジェクト



「私のふるさとにはとても貧しい村があります。病院はないし、医者も医薬品も乏しいところです。この医療器具を持っていくことが出来れば沢山の命が助かると思います。」

2月中旬、バングラディッシュから群馬大学医学部（博士課程）に留学中のハーク医師と会談した。病院ではさまざまな器機や備品が折々に廃棄処分されているという。その中には、まだ使えそうなものもあるという。

同氏は研究室を往来する際、どうにかバングラディッシュの病院などでリサイクルできないかと考えていた。ある日思い切って担当教授に相談したところ、個人に譲渡することは難しいが、大学—NPO間であれば可能だということであった。知り合いを通じてTMRCの事を知り、この度縁が結ばれたが、乗り越えるハードルは多い。船で輸送するにも現地の受け入れ先がNPOでなければ、高額な税金をとられてしまうし、信頼できる団体を見つけるにも時間がかかる。TMRCの現地事務所開設も視野に入れ、現在調整中だ。ハーク氏によれば現地で中古の器機備品をメンテナンスして使用するという。しかし、コンテナ1台の輸送費は約50万円。この記事をご覧になった方、何卒ご協力をお願い申し上げます。



本事業は清水海隆理事が担当し、ハーク氏と話をにつめ、4月に群大の用度係を表敬訪問している。無料払い下げを受けられた場合、メンテナンスが可能かどうか、現在調査している。今後の展開が楽しみである。